

金澤北ロータリークラブ

1993年6月10日

第489号

例会日：木曜日 12:30～13:30
 例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭
 TEL<0762>52-2271 FAX52-2273
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所
 TEL<0762>22-2525 FAX24-2882
 会長：吉田 富士夫 幹事：磯野 洋明
 情報委員長：辻 利陽 会員85名

環日本海情報協力とロシア情勢

星稜女子短期大学教授

高崎 望氏



父祖の地である金沢に帰ってきたので、石川県をはじめ北陸三県や新潟と向き合う環日本海諸国の情報通信事情について話したい。従来の政治・経済・文化のパートナーは、アメリカ中心であったが、日本地図を逆さにしてみれば、沿岸の隣人は中国や朝鮮、ロシアといったアジアの一員であることがわかる。今後は太平洋の時代から日本海の時代へ、環日本海という認識を持つ必要がある。

対岸諸国の不安定要因は、天安門事件後の中国、核拡散防止条約をめぐる北朝鮮、訪日延期のロシアと各々に存在している。従って各国への協力分野も分類して、政策協力より経済や学術文化、特に環境問題面での協力を考えていくとよい。核廃棄物や大気汚染に配慮できないロシアや中国に神経を払いたい。

経済協力は石川県でも色々始まっているが、政策や経済面での不透明さがあり、総論ほど各論がうまくいかない。旧社会主義大国のロシアや中国はそれ自身が帝国、小宇宙で、グローバルな自由市場のルールに慣れていない。血は水よりも濃しで、最後は白人同士、アメリカの方が話しやすく、日本との文化相互理解は簡単ではない。中古事業の一次単品の販売もいいが、環日本海という経済圏で恒常的な交流を望むなら、もっと長期展望に立った協力援助が必要であり、相互インフラストラクチャーによる建設計画を考えるべきだ。

ロシアの電話普及は統計より低く、軍用通信中心で民間に発達しなかった。民営化されても特権官僚や共産党幹部が独占し、混乱状態だ。合併話はコミッションが要求され、日本での成功例は殆んどない。しかし経済に苦しむアメリカや難民におびえるドイツが、長期的戦略に立ち先行投資を行い、官民で協力して成功している。

日本の成功例はKDDのハバロフスクへの宇宙通信だけで、大赤字だが、日本電気の勇断に敬意を表したい。やはりハードカレンシーをどれだけ作っても特権官僚に私される以上、設備と人材をパートナー的に送り込む方がよいのではないか。中国でも香港返還を想定して、イギリスのケーブルアンドワイアレス社が、蘇州からイルクーツクまで光ファイバー敷設計画に着手している。日本の情報通信事業もそれ位の戦略眼を持って欲しい。そのためにも北陸が是非、環日本海動力のリーダーシップをとって、インフラ作りや、医療援助、ソフト産業、学術文化協力に取り組んでいただきたいし、私も張り切ってお手伝いしたい。

ありがとうございました

米山奨学生 頼 建 宏 氏



例会に来る度に、必ず私に考えさせることや勉強させることがあります。その中でも人のspeechを聞くのが一番たのしいことだと思います。人がspeechをする時、大体、その人自身の最も貴重な人生経験か、一時的な研究の所得か、物事に対する悟りなどを自分の言葉で発表するため、それを聞くと、例え自分が同じようなことをくりかえさなくても、短時間内に、人の何十年もかけて、やっと積んで来た人生に対する悟りなどを味わうことが出来るような気がします。

できの悪い私はこのように盛大な例会に参加するのはなれませんでした。が、何回か参加すると、ふだんでは本で習えないことがこの例会の出席を通してだんだん見えるようになったことが沢山あります。本を読むこと自体ではもちろん、沢山の知識を身につけることができますが、知識のほかに、作者が本を通じて読者に伝えたい内的なもの、つまり一生の経験を短時間内に理解することは難しいことです。と言いますのは読者自身が年齢の制限で、結局人の本の表面的なものを身につけることができても、その本のほんとうの中身を身につけることができないのです。個人的な考え方ですが、本で見たものを自分のものに消化するのはだいぶ時間がかかると思います。または、本で習ったことを現実の社会に活かさない勉強する意味は何もないではないかと思えます。

俳句を例として言いますと、最もふさわしい僅かの数十文字で、作者の当時の気持、季節、環境などを人に伝えることができるのは美しいものではないでしょうか。しかし、単に一時的な記憶で一つの俳句を暗記しても、結局その数十文字の伝えたいものを理解することができないのです。なぜかと言いますと、やはり先に言ったように、たとえ一つの俳句でも作者の何十年の経験を積んであるものですから、そう簡単に単に暗記するだけで、理解できるものではないのです。ほんとうにそれを理解したければ、それはやはり作者ぐらいの人生経験か、それ以上のものでないといけないことだと思います。

まだここに立って、私よりも何十年も人生経験が豊かな大先輩の方々の前でどういうふうに話をすれば良いかということについて勉強するのはきょうが2回目です。考えてみると、いくらお別れのあいさつと言っても、ここに立つのはまだ30年以上も早いと思います。再びこのチャンスを与えて下さって大変感謝しております。

この世の中では何事でも恐らく正と負からの見方というのがあると思います。しかし、負の見方があるからこそ、我々を正の方の意味をよく理解させることができると思えます。人間の存在もこれと同じように、我々は他人が自分のまわりに存在している重要性に気づいて始めて我々自分の存在の重要性がわかるようになると思います。すると人と自分といったような存在の差異が生じ始めます。一旦、このような存在の差異感が生じると、人と人の間では競争が始まってしまいます。競争の中では、結局まけた人もいるし、勝った人もいます。では勝った人は優越感を持つのでしょうか、まけた人は悔しいのでしょうか。

我々人間は例えどんなことをやっても、その背後に何らかの力でいわば宇宙の自然法則で支配されて、行動をとるような気がします。もしこれらの法則の中で一つの大法則があるとすれば、宇宙内のすべての出来事はこの法則に従って進行しなければなりません。

従って、憶測でこの大法則の性質を推理すれば、この大法則は唯一存在で、均質的で、単一物質から構成されるという三つの性質があると仮定できます、これらの性質の下では良い出来事も悪い出来事もないはずで、良いと悪いの区別は単に時の流れや場所の違いによって判断されるものです。これと同様に、いわゆる人と自分の区別も結局、時の流れや場所の違いによってかわってきます。この点を見破れば、もはや人と自分の区別がつかなくなる。

自分のやっていることはもう単に自分のためではなく、群衆のためとなります。人間の社会は競争の社会でもなくなり、助け合う社会となるでしょう。

自分のためでも、人のためでも、何らかのことで何かをしようと、荷が重すぎないでしょうか、大先輩のみなさんの方々は日常の仕事に対する考え方はたぶん利益のためでもなく、名誉のためでもなく、自分のためでもない。ただ平々凡々と自分の人生をくらしているだけではないかと思えます。しかしみなさんの方々の平凡なやり方は私のような若輩者が何十倍も何百倍の努力も果さなければまねのできないやり方です。いつまで過せば、私はみなさんの方々と同じように何のためでもなく自分の思うままのやり方で人生をおくることができるでしょうか。

私という人間はなまけ者で、頭もよくない方です。又、米山奨学生としての義務もぜんぜん果たしていないし、大先輩のみなさんの方々をあまり見習ってませんでした。何だか鈴木先生とみなさんの方々のご好意を裏切ったような気がします。にもかかわらず、この二年間の間は大変お世話になりました。北ロータリークラブの奨学生としては一生光栄に思います。

これからも研究のことだけではなく、みなさんの方々の平凡の中の平凡でない物事に対する処理能力を見習いたいと思います。

最後にこの二年間、精神的に支えて下さった鈴木先生と北ロータリークラブのみなさんの方々に感謝致します。それとこの二年間、実質的に私の面倒を見て下さった日本の代表的な女性の広沢さんに大変感謝致します。



